
開講科目名：民法特殊研究（2単位）
開設年次：1年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：近藤 久雄

《授業の概要》

本講座では、民法第4編親族、第5編の相続に関わる重要な論点を取りあげ検討する。今日、家族をめぐる法は大きく揺らいでいる。昨年の9月、最高裁は婚外子の相続分を婚内子の2分の1とする民法900条4項但書の規定を違憲とする決定をおこなった（最高裁大法廷決定平成25年9月4日）。この判決を受けて漸く差別規定を削除する民法改正が行われた（平成25年12月）。さらに性同一性障害のため女性から性別を変更した男性と妻が、第三者の精子提供による人工授精(AID)で妻が産んだ長男の戸籍上の父親を男性と認めるよう求めた事件で、最高裁第三小法廷は、申し立てを却下した第1、2審の判断を覆し、父親と認める決定をした。（最高裁決定平成25年12月10日）

前者は、憲法24条に家族生活における個人の尊厳と両性の本質的平等の規定があるにも関わらず、相続において婚内子と婚外子を差別する事の是非であり、後者は、生殖補助医療の発達により生じた生物学的なつながりのない親子関係設定の是非である。これは、法が社会の現実（家族の多様化や医療技術の進歩）に追いついていない証左である。なぜ、このような状況が放置されているのか、この点を検討するところから始めたい。まずは、最高裁ホームページ又は判例データ・ベース（院内で利用可能）を利用し、この2つの判例を読んで講座に臨んで欲しい。その上で家族の変化を踏まえた家族法のあり方と実務を考える契機となる講座としたい。

六法を必ず持参して欲しい（判例付きが望ましい）。

講義内容

- 第1回 家族法総論：今何が問題となっているのか?二つの判例を通して
- 第2回 婚姻1：法律婚の保護 
- 第3回 婚姻2：非婚カップルの保護 
- 第4回 離婚1：破綻主義の考え方
- 第5回 離婚2：家事調停における諸問題  
- 第6回 親子関係1：実親子関係 
- 第7回 親子関係2：養子親子関係 
- 第8回 親子関係3：生殖補助医療と親子関係  
- 第9回 親子関係4：親権・監護権、面会交流
- 第10回 相続人と相続分  
- 第11回 特別受益者の相続分・寄与分  
- 第12回 遺産分割、相続の承認・放棄等
- 第13回 遺言：要件、遺贈、「相続させる」旨の遺言等 
- 第14回 遺留分 
- 第15回 まとめ：これからの家法を考える

《テキスト》

二宮周平著『事例演習家族法』（事例演習法学ライブラリ4）新世社
家族法の重要論点に関わる事例が取り上げられており、問題解決に向けた考え方の筋道がつけられているので、事実認定や法的な議論のしかたが分かりやすくなっている。

《参考書》

二宮周平『家族法 第4版』（新法学ライブラリ9）新世社
親族と相続に関する基本的な法制度を中心に、判例、戸籍席例などの取り扱い、主要な争点に関する学説をまとめた教科書である。著者の研究者としての主張（家族を個人の幸福追求の場、自己実現を支援する場として捉え直す。勿論他人への配慮を伴ったうえで）がよくあらわれた本である。この点を理解したうえで読んで欲しい。

『民法?補訂版親族・相続』東京大学出版

判例をもとに具体的な事例を作成し、この事例をもとに問題提起をして、解決方法を検討するという形式をとっているので、わかりやすくよみやすくなっている。特に相続分野の、著者の専門分野からの指摘は参考となる。そろそろ新版がほしいところである。

水野 紀子編『民法判例百選3 親族・相続』（別冊ジュリストNo. 225）有斐閣

家族法の代表的な判例を100件、収録している。講義に出て来た判例は必ずチェックして欲しい。